



第2報(2017年1月)  
デミング賞委員会

# デミング賞 評価基準改定 について

2018年度から  
適用予定

- ・デミング賞大賞合格判定(点数)決定
- ・「評価項目」内容公表

### ・デミング賞大賞合格判定(点数)が決定いたしました

2016年10月にデミング賞委員会から公表いたしました“2018年度からのデミング賞審査における評価基準の改定”に伴い、デミング賞大賞の評価基準についても検討いたしました。その結果、2018年度から下記の判定基準で運用いたしますのでお知らせいたします。

### デミング賞大賞合格判定基準[2018年度～]

デミング賞大賞		デミング賞・デミング賞大賞合格判定基準[現行]	
		デミング賞	デミング賞大賞
A. 経営目標・戦略の策定と首脳部のリーダーシップ (100点満点)	75点以上	基本事項 (100点満点)	70点以上
B. TQMの適切な活用・実施 (100点満点)	75点以上	特徴ある活動 (5点満点)	3.5点以上
C. TQMの効果 (100点満点)	75点以上	首脳部の役割とその発揮 (100点満点)	70点以上

### ・「評価項目」内容が決定いたしました

2016年10月にデミング賞委員会から公表いたしました“2018年度からのデミング賞審査における評価基準の改定”でお示しました。「評価の項目」の詳細の内容が決定いたしました。次ページに示す通りです。なお、2017年12月までは改定が行われる旨を告知する周知期間となりますが、この間に、2018年度から適用予定の評価基準を試行したTQM診断を先行して実施する予定です。この結果によって、評価基準の文言などが一部修正される場合がありますので予めご了承ください。

## デミング賞 評価基準[2018年度～(予定)]

### A. 経営目標・戦略の策定と首脳部のリーダーシップ

評価の項目	点数	合格判定
<b>I 積極的な顧客指向の経営目標・戦略の策定</b>	100点	70点以上
経営理念、業種、業態、規模及び経営環境に応じて、明確な経営の意思のもとに、積極的な顧客指向、さらには組織の社会的責任を踏まえた経営目標・戦略が策定されていること。組織として今後の目指す姿・将来計画が明確になっていること。		
<b>II 首脳部の役割とその発揮</b>	100点	70点以上
首脳部が、積極的な顧客指向の経営目標・戦略の策定とTQMの実施においてリーダーシップを発揮していること。経営目標・戦略や環境変化に対する識見があり、組織能力の向上・人材の育成・組織の社会的責任の重要性を理解していること。TQMに対する理解と熱意があること。		

### B. TQMの適切な活用・実施

評価の項目	点数	合格判定
<b>III 経営目標・戦略の実現に向けたTQMの適切な活用・実施</b>	100点	70点以上
経営目標・戦略の実現に向けて、TQMが経営のツールとして適切に活用され、実施されていること。また、その中で、科学的方法（統計的方法など）・ITが適切に活用されていること。		
<b>1. 経営目標・戦略の組織的な展開</b>	(15点)	
経営目標・戦略が組織的に展開され、全員参加と、部門間及び関連組織間の密接な連携のもと、組織一丸となって実施されていること。		
<b>2. 顧客・社会のニーズの把握と技術・ビジネスモデルの革新に基づく新たな価値の創造</b>	(15点)	
顧客・社会のニーズの把握と技術・ビジネスモデルの革新に基づいて、新たな価値の創造を目指した新事業の開拓、製品・サービスの開発、及び／又は業務（プロセス）の改革が積極的かつ効果的に行われていること。		
<b>3. 製品・サービス及び／又は業務の質の管理と改善</b>	(15点)	
a. 日常管理：標準化と教育訓練により日常業務でトラブルがほとんど発生せず、各部門の主要な業務が安定して行われていること。 b. 継続的改善：製品・サービス及び／又は業務の質に関する改善が計画的・継続的に行われ、市場及び／又は後工程からのクレーム・不良が減少している、あるいは極めて低いレベルに保持されていること。顧客満足度が向上している、あるいは極めて高いレベルに保持されていること。		
<b>4. サプライチェーンを貫く、品質・量・納期・原価・安全・環境などの経営要素別管理システムの整備と運用</b>	(15点)	
組織にとって必要な経営要素別の管理システムが、顧客を起点とする、パートナーや関係組織を含むサプライチェーンを貫いて適切に整備・運用され、経営環境が変化する中で目的を確実かつ迅速に達成する上で有効なものになっていること。		
<b>5. 情報の収集・分析と知識の蓄積・活用</b>	(15点)	
市場及び組織内の情報の収集・分析、業務に必要な知識の蓄積・活用が体系的に行われ、新たな価値の創造、製品・サービス及び／又は業務の質の管理と改善、経営要素別管理システムの整備と運用に役立っていること。		
<b>6. 人・組織の能力開発と活性化</b>	(15点)	
人材の育成・能力開発が計画的に行われており、経営目標・戦略の実現及びそのためのTQMの実施、それを支える人・組織の活性化に役立っていること。		
<b>7. 組織の社会的責任への取り組み</b>	(10点)	
社会の一員としての組織の役割と責任を認識し、経営理念、業種、業態、規模及び経営環境に応じた取り組み（例えば、環境保全、地域貢献、公正な事業慣行、人権の尊重、情報セキュリティなど）を、具体的指標を掲げ積極的に行っていること。		

C. TQMの効果

評価の項目	点数	合格判定
IV TQMの活用・実施を通して、経営目標・戦略について得られた効果	100点	70点以上
TQMを適切に活用・実施した結果として、経営目標・戦略について効果をあげていること。		
V 特徴ある活動と組織能力の獲得	100点	70点以上
経営目標・戦略を実現する上で中核となる部分において、TQMの内容又は適用について特徴のある活動を行って効果を得ており、将来の発展に必要な組織能力を獲得できていること。		

注) ここで示した「Ⅲ. 経営目標・戦略の実現に向けたTQMの適切な活用・実施」の項目と配点は一つの基準です。審査に当たっては、応募組織の経営理念、業種、業態、規模及び経営環境、並びにそれらに応じて策定された経営目標・戦略を考慮して審査委員会において変更することがあります。

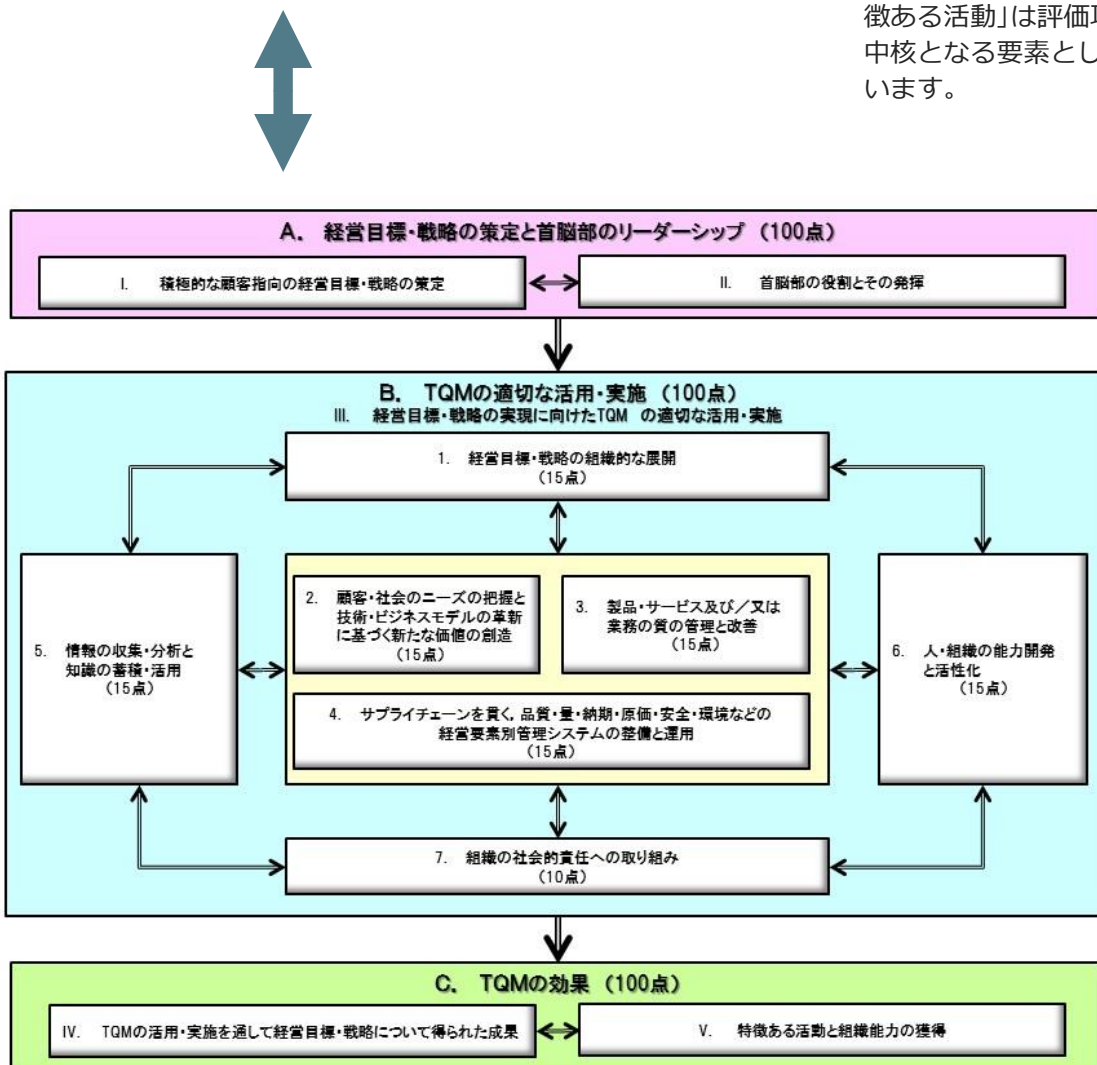
**<デミング賞を受賞できる組織とは>**  
**TQMにより、次の3項目を実現している応募組織に授与されます。**

**A) 経営理念、業種、業態、規模及び経営環境に応じて、明確な経営の意思のもとに積極的な顧客指向の、さらには組織の社会的責任を踏まえた経営目標・戦略が策定されていること。また、その策定において、首脳部がリーダーシップを発揮していること。**

**B) A)の経営目標・戦略の実現に向けて、TQMが適切に活用され、実施されていること**

**C) B)の結果として、A)の経営目標・戦略について効果をあげるとともに、将来の発展に必要な組織能力が獲得できていること**

※これまで、「基本事項」「特徴ある活動」「首脳部の役割とその発揮」という3カテゴリで評価基準が構成されていましたが、「デミング賞を受賞できる組織とは」のA)～C)に対応する形で基準を整理し直しました。従来の「首脳部の役割とその発揮」は評価項目Aの中に、「基本事項」は評価項目Bの中に、「特徴ある活動」は評価項目Cの中に、中核となる要素として位置づけています。



今般改定の評価基準は、2018 年度にデミング賞・デミング賞大賞を受審する組織の審査から適用する予定です。

なお、2017 年 12 月までは改定が行われる旨を告知する周知期間となりますが、この間に、2018 年度から適用予定の評価基準を試行した T Q M 診断を先行して実施する予定です。

この結果によって、評価基準の文言などが一部修正される場合がありますので予めご了承ください。

評価基準に関する情報は、デミング賞の web で逐次お知らせいたします。

また、2018 年度以降にデミング賞・デミング賞大賞への応募をご検討されている組織には、都度最新情報をご提供いたします。

(※このパンフレットでお知らせした内容は 2017 年 1 月現在のものとなります。)

---

デミング賞に関するお問い合わせは、下記デミング賞委員会事務局へどうぞ。

デミング賞委員会 事務局

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 1 - 2 - 1

一般財団法人 日本科学技術連盟内

電 話 : 03-5378-1212 (平日 9:00 ~ 17:00)

F A X : 03-5378-9842

E-mail : demingprize@ juse.or.jp

---